

森林づくりに関する税検討委員会 意見書

新海洋子（中部環境パートナーシップオフィス）

最初に、第1、2回と欠席となり申し訳ございません。ご説明及び資料を拝読して、意見を提出いたします。ご査収くださいませ。

はじめに

今の日本、三重県においては、森林資源を活用した経済システムは成立していない。しかし、資料によると我々は三重県の森林の多面的機能から1兆2000億円（県民一人当たり66万円）の価値を得ている。つまり我々は、森林資源から十分に恩恵を得て社会、我々の生命基盤が維持されているということである。が、県民にはその意識はなく、現実には森林は荒廃し、様々な問題が起きている。我々はきちんと認識し、人間が生きるために必要な森林が持続可能に管理維持されるシステムを早急につくるのが必須となっている。

意見

持続可能な森林資源の活用、森林環境の維持のために、以下の5つのポイントが重要だと考える。そして、課題や不足していることを議論するのではなく、今あるもの、三重県のポテンシャルをどう活用するか、もしくは不足しているものをどう生み出すかを議論する場をつくり、三重らしい持続可能な森林環境モデルが創出されるとよい。

1)教育

現状においてもNPO等において、実際に現場に出向く自然体験学習等森林環境教育が実施されている。非常に素晴らしいと思う。が、教育は、単発に体験するだけではなく、子どもの発達段階にそって学びを重ねていくものである。例えば、幼児期、小学低学年は木や森や木、生き物に触れ、森林の素晴らしさを感性で受け止める。小学校中学年は森林のもつ問題に触れ、なぜそのことが起きているか考える。高学年は自分と森林、森林資源との関わり、森林資源の恩恵を知り、問題解決するために自分たちに何ができるか考える。中学生はさらに多角的に捉え、地域社会の経済システムの中での森林資源の位置づけを知る。高校、大学では森林資源を活用した環境と経済と社会の統合を可能にするビジネスモデルを作り出す。このような体系的カリキュラムが重要であり、本来の森林環境教育にはこのプロセスが必要である。

これは教育委員会、学校、教育大学などとの連携がなければ実施が難しい。しかし、2014年に国連持続可能な開発のための教育の10年最終年会合が日本で開催され、国内でもこういった持続可能な社会をつくるための教育の取組が盛んになる。そういった機会を利用できないだろうか。

2)ビジネス

少子高齢化、財政悪化、コミュニティの崩壊、日本社会は持続不可能な状況にある。だからこそ、地域資源を活用しての地域再生、コミュニティ経営が急務である。いかに森林資源を使うか。これは新しい発想と技術を要する。これまでと同じ産業では維持できようと思う。そのために、森林組合、漁業組合、流域における関係団体、中小企業、ソーシャルビジネスを扱う大学、森林の多面的機能に関わる多様な組織団体等と協働で、その地域のポテンシャルを上手く活用したビジネス創出が必要である。特に次世代の参加による力と知恵が重要である。

3)市町村が取り組みやすい環境づくり（広域の場合は県になるが）

1) 2) の現場に最も近いのが市町村である。県ですべきこと、市町村ですべきことのすみわけをし、県は市町村が動きやすい状況を作り出す。

4)支える政策

1)2)3)を可能にする政策が必要である。その政策形成の過程には、ステークホルダーによる丁寧な合意形成プロセスが必要である。県民に対して三重県の森林の現状と課題、今後の方針や検討している政策の説明と意見交換、利害対立する主体の調整などが必須となる。ここをいかに丁寧にするかで、県民の当事者意識育成が変わってくる。この過程は大人への森林環境教育と捉えられる。

4)そのための森林税

1)2)3)4)を実施するための税金として位置づける。県民が、なぜ森林税を支払うのか、何に使われるか、使われることでどういった変化があるのか、その変化が県民にとってのどんなメリットにどうつながるのか、これまでと何が変わるのか、の理解が必須である。

そして、三重県の森林資源を活用し維持することが、自信の生命を守ること、自信の子ども、孫、未来世代の生命を守ることにつながることを、きちんと認識していただくことが重要である。三重県の森林はコモンズ、県民の共有財産であるという意識を育むことが重要である。すべての県民には難しいが、そういったプロセスを行政がつくることが重要であるし、どういった方法で行うかが問われる。そしてそのことによって、今後の三重県民の市民意識が変わってくるように考える。

最後に、上記の意見、教育、ビジネスについては環境森林部の領域を超える。市町村との連携、NPO や市民、学識者、企業の協働などセクターを超える。環境森林部はその調整が重要な役割になるのではないか。三重県が一体となって取り組まないと持続可能な森林資源の活用と管理、保全は困難である。いかにその体制をつくかも、重要な課題だと考える。

■まとまっておらず、また具体的な提案ができていない意見書で申し訳ありません。